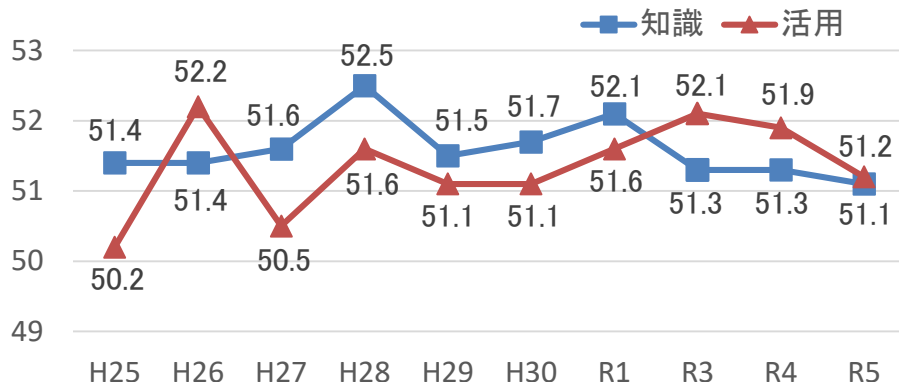


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化



○知識・活用ともに偏差値50を上回っている。

3 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
言葉の特徴や使い方に関する事項	72.5	69.8	71.5
情報の扱い方に関する事項	70.1	68.0	56.7
我が国の言語文化に関する事項	82.8	84.2	70.0
話すこと・聞くこと	72.4	72.1	71.7
書くこと	63.4	55.4	53.3
読むこと	71.7	71.6	68.3

○[思考力、判断力、表現力等]に係る各領域においては、全国正答率を上回っている。

▲[知識及び技能]の「我が国の言語文化に関する事項」においては、全国正答率を1.4P下回っている。

2 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	72.7	70.5	68.2
思考・判断・表現	68.5	65.2	63.0
主体的に学習に取り組む態度	56.6	49.8	50.0

○全ての観点において、全国正答率を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	73.4	73.3	70.4
短答	79.6	77.7	76.4
記述	57.8	50.0	50.0

○全ての解答形式において、全国正答率を上回っている。

■ つまずきが見られた問題

大問4(2) 県正答率80.4% 全国正答率81.4%

大問4(3) 県正答率58.5% 全国正答率60.2%

[C 読むこと]エ 精査・解釈 に係る資質・能力

◇登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができるかどうかをみる問題

▲場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像するために、複数の叙述を結び付けて読むことに課題がある。

(※大問4(3)の「出題のねらい」は「共有」であるが、「共有」は精査・解釈を通して行われるものであるため、上記2つの問題を取り上げた。)

★ 指導の具体例

単元名 「物語の魅力を紹介カードで伝え合おう」

①学習の見直しをもつ

- ・これまでに読んだ物語について、心に残ったことなどを発表し合う。
- ・教師が作成した紹介カードを見て、物語の魅力を紹介し合うという学習の見直しをもつ。

②共通教材を読み、登場人物や出来事を整理する

- ・心に残る文を見付けながら読む。
- ・全文を掲載したワークシートにより、思考を視覚化して捉える。

③友だちと交流しながら、「心に残る一文」を選ぶ

- ・ワークシートを活用し、「心に残る一文」とそれに関連する叙述を線で結ばせる。
- ・線で結んだ複数の叙述を結び付けて読み、そこから想像したことや「心に残る一文」として選んだ理由をまとめさせる。

④「心に残る一文」を選んだ理由を友だちと交流する。

- ・交流を通して、登場人物の心情が情景を通して暗示的に表現されていることにも気付かせる。

⑤友だちと交流したことを基に紹介カードを作成する。

⑥紹介カードで物語の魅力伝え合い、感想を交流するとともに学習を振り返る。

物語の魅力(「心に残る一文」とその理由)を伝えるために、複数の叙述を関係付けたり、登場人物の心情などについて叙述を基に捉えたりしながら、自分の考えをまとめさせる。その際、「心に残る一文」に決めた理由として、どの表現に着目したのか、どの表現とどの表現を結び付けて考えたのかを説明できることが大切である。

◆ 指導のポイント

★文章の内容を具体的に想像するには、複数の叙述を結び付けて読み、読み取ったことを基にして、総合的に判断する必要性に気付かせることが重要。

指導に当たっては…

- ・登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付けることで、人物像(性格や考え方など)を捉えさせる。
 - ・登場人物や場面設定など、個々の叙述を基に、物語の全体像を具体的にイメージさせる。
- などの指導が考えられる。